



**栃木県支部ニュースNo.41**  
**第八回定期総会・講演会・懇親会**  
 2024年5月1日発行  
 栃木県支部



栃木県支部ホームページQRコードです。  
 スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

**北里大学同窓会栃木県支部**  
**第八回定期総会・講演会・懇親会開催**

栃木県支部支部長 滝 龍雄

北里大学同窓会栃木県支部の皆様

2024年は、2008年に北里大学同窓会栃木県支部が再出発してから第八回定期総会を開催する年に当たります。2020年の第六回と2022年の第七回はCOVID-19感染拡大抑制のために、書面審議となりましたが、今年是对面で総会を開催します。

今回の講演会には初めて海洋生命学部より三宅教授をお招きします。講演会、懇親会にはご家族連れでご参加ください。

- 開催日時：2024年6月22日  
 15:30 受付開始  
 16:00 総会開始  
 16:30 講演会開始（三宅裕志先生）  
 18:00 懇親会開始  
 20:00 懇親会終了

開催場所：ホテルニューイタヤ  
 320-0811 宇都宮市大通り 2-4-6



懇親会参加費：\*\*\*\*円  
 2010年以降卒業\*\*\*\*円

総会議題

議題1：支部規約改正

支部事務局と支部銀行口座の名義人変更の変更について。既に支部会ニュースでお知らせしていますが、事務局が済生会宇都宮病院より田村梨園の田村明美さん宅に移転している為に、それに適合するように会則を改訂したい。

現行：北里大学同窓会栃木県支部規約

- 2008年（平成20年）10月26日改訂
- 2010年（平成22年）7月4日改訂
- 2014年（平成26年）7月13日改訂
- 2020年（令和2年）6月1日改訂

第一章 総則  
 （事務局）

第2丈本会は事務局を321-0974911-1（須美生会宇都宮病院 医療技術部臨床検査科）に置く。

第七章 付則

（規約の施行）

本規約は平成20年10月26日より施行する。  
 本規約は平成22年7月4日より施行する。

支部事務局

〒321-0974 栃木県宇都宮市竹林町 911-1  
 済生会宇都宮病院 医療技術部 臨床検査科  
 北里大学同窓会栃木県支部（北里会）事務局  
 Tel.028-626-5500 内線 3207、fax028-626-5646

改定案：北里大学同窓会栃木県支部規約

- 2008年（平成20年）10月26日改訂
- 2010年（平成22年）7月4日改訂
- 2014年（平成26年）7月13日改訂
- 2020年（令和2年）6月1日改訂
- 2024年\*月\*日改訂

第一章 総則  
 （事務局）

第2条 本会は事務局を栃木県下野市川中子 34-1（田村梨園）に置く。

第七章 付則

(規約の施行)

本規約は平成 20 年 10 月 26 日より施行する。

本規約は平成 22 年 7 月 4 日より施行する。

本規約は令和 6 年 7 月 1 日より施行する。

事務局

〒329-0415 栃木県下野市川中子 34-1 (田村梨園)

北里大学同窓会栃木県支部 (北里会) 事務局

田村 明美

TEL090-1175-6240 Fax.\*\*\*\*\*

議題 2 : 第七期活動報告

2022 年

9 月	Relay for Life Japan 2022 in Tochigi 参加
10 月	北里大学同窓会支部長会
12 月	栃木県支部ニュース No.37 発行

2023 年

2 月	栃木県支部新年会 2023 : 中止
5 月	栃木県支部ニュース No.38 発行
6 月	北里英郎先生公開講演会・懇親会
8 月	栃木県支部ニュース No.39 発行
9 月	Relay for Life Japan 2023 in Tochigi 参加
10 月	北里大学同窓会支部長会支部長出席 福岡県支部設立 35 周年記念式典
12 月	栃木県支部ニュース No.40 発行

2024 年

2 月	栃木県支部新年会 2024
3 月	紅緑会 (獣医学部) 栃木県支部総会
5 月	栃木県支部ニュース No.41 発行
6 月	第八回定期総会・懇親会

議題 3 : 第七期会計報告

議題 4 : 第八期活動計画案

議題 5 : 第八期活動予算案

議題 6 : 第八期運営委員・会計監査の選出

尚、総会に出席できない方は、同封のハガキに必要事項を記入して、\*\*\*\*までにご投函下さい。

## 北里大学同窓会栃木県支部 新年会2024開催報告

実行委員 福田容子、岸善明

新型コロナの流行で 3 年間中止していた北里大学同窓会栃木県支部新年会を盛大に開催することが出来ましたので、開催の報告をさせていただきます。

開催月日 令和 6 年 2 月 10 日(土)

開催場所 チサンホテ 1F『だいたい』(宇都宮駅前)

参集者 23 名

コロナ禍が明け、そして 3 年ぶりの開催でしたので参加人数が少ないのではないかが開催に際しての最大の心配でした。その為、実行委員は支部の役員が担当

し、開催場所を宇都宮駅前とし、今までの参加者には開催通知と併せて案内のメールを送ることとしました。更に返事のない方には電話での連絡も行いました。

お陰様で今までとほぼ同じ 25 名の参加人数で開催の運びとなりました。ところが、開催の当日に JR の踏切事故がありました。その為、約 10 名の方に影響が出て開催の時間が遅れたばかりでなく、最終的に 2 名の方が欠席となりました。



懇親会は滝支部長の挨拶、福島(1985MM)さんの乾杯の発声で始まり、楽しい 2 時間となりました。開催に際して支部長から栃木支部を始めて今年は 30 年目になるとの発表があり、特別企画を計画したいので、会員各位からの御意見を賜りたい旨の話がありました。会場からは熊本、北里ツアーの希望が出ました。今年の秋には熊本、北里ツアーが実現する可能性が出てきました。皆様にはどうぞ楽しみにしてください。



懇親会のメは石川(1973HD)さんからあり、またの再会を誓いました。実は、石川さんは独自で北里同窓会を主催し、毎回 20 名近い北里のメンバーが集まります。会の名前は信ちゃん会、開催は非定期ですが何と 20 年以上続いております。北里のメンバーは参加可能ですので参加の希望がありましたら石川さんにご連絡下さい。

最後になりましたが、我々役員は滝支部長を中心にこの素晴らしい集まりを続けてゆく所存です。ただ、1 点気になることは参集者の高齢化です。この度の新年会では安藤(2022PP)さんの参加がありましたが、此れからは若い方の参加が増える様に気を配る所存です。栃木県支部の皆様におかれましても、この点に關しましてご支援とご理解をお願いいたします。



## 支部新年会 2024 に参加して

安藤由佳 (2022PP)

2022年に薬学部を卒業した安藤由佳と申します。卒業して2年が経ち、初めて同窓会の行事に参加させていただきました。コロナ禍明け3年ぶりの開催と聞き、どんな雰囲気なのだろうとドキドキでしたが温かく迎えて下さいました。宇都宮チサンホテルにて魚料理と飲み放題コース、ビンゴ大会も開催され北里グッズも当たりました。年齢層は様々でしたが、皆さまお元気で、元気の秘訣を知りたいくらい活気のある会でした。

支部長の滝先生と同じテーブルでしたが、コッホ夫妻と北里が日光で静養した記事が年始の下野新聞に掲載されていたことが話題になりました。栃木県にもゆかりがあったことを知り、今年から千円札の顔となりますが、柴三郎先生の話で盛り上がるのも同窓会ならではだと思います。



薬学部の話にはなりますが、毎年微生物学研究室の授業では大村先生の影響もあり、旅先で土を採取するようにと課題が出されます。土の中から微生物の探索をするものですが、同席の先輩方の代からも同じ課題が受け継がれていたようで、改めて北里の不撓不屈の精神を感じます。学生の時は薬剤師を目指しているのに何故こんなに研究に時間をかけているのだろうと思いましたが、卒業してから学生でしかできない貴重な体験であり、もっと自発的に疑問をもって取り組んでいれば良かったなと思います。

5年次から薬局と病院実習が始まるのですが、ちょうどパンデミックの影響で薬局実習が短縮されたり、病院実習も時間が短縮されたりと例年通りのプログラムとはいきませんでした。国試前も対面での授業は制限され、友達ともなかなか会えない日々でした。コロナ禍で世界中がウイルスの脅威にさらされましたが、北里の時代も感染症との戦いでした。感染症を前にすると人間は無力に感じますが、自然や動物、人体の仕組みを研究することで利用できる分野は沢山あります。普通の日常を当たり前と思わずに、このような同窓会を通して垣根を超えた交流ができること、大切さを実

感します。

**Relay for Life 2024 JAPAN in Tochigi 栃木県支部として参加!!**

支部長 滝 龍雄

栃木県における第12回のRelay for Life JAPANが9月14(土)・15(日)日、壬生町の総合公園陸上競技場で開催されます。



栃木県支部も支部として参加する予定です。詳細は支部会ニュース No.42 でお知らせします。今から予定に入れて置いてください。参加費は支部で負担します。



滝 龍雄

今年の上半期から日本の紙幣(1,000円、5,000円、10,000円)が変わりました。紙幣には様々な偽造防止策が取られていて、益々偽造が難しくなっています。1,000円札もこれまでの野口英世から北里大学の学祖・北里柴三郎博士(以下、博士)になります。昨年6月に栃木県支部が主催した博士の曾孫に当たる北里英郎先生の公開講演会「北里柴三郎の人となり」では、博士の人となり、研究業績、社会的貢献について詳しくお話頂きましたが、皆さんが大学入学後、講義等でも



折に触れ博士の事を教わった事と思います。詳しくは北里研究所北里柴三郎記念博物館（昨年10月20日、北里柴三郎記念館より名称を変更）の資料を参照してもらおうとして、ここでは、博士と栃木県、特に日光との関わりあいを次第として書きます。

1853年、肥後の国（現在の熊本県）小国郷北里村で生を受けた博士は、30歳（1883年）で東京帝国大学医科大学（現在の東京大学医学部）を卒業後内務省衛生局に勤務し、その2年後の1885年、32歳の時にドイツ留学を命ぜられ、その一年後、ベルリンのRobert Koch博士に師事し、本格的に細菌学の研究に従事した。そこで破傷風菌の嫌氣的純培養に成功するなど、数々の研究業績を上げ1892年、6年間の留学を終えて帰国した。帰国後は福沢諭吉のサポートを受けて日本初の私立伝染病研究所（後の国立伝染病研究所）を創立した。

1914年には国立伝染病研究所の文部省移管を巡って所長を辞任し、私立北里研究所を設立し、明治から大正にかけて予防医学や感染症医学に関する多くの業績を残したが、研究だけではなく、社会的にも多大なものが多い。

1901年（明治34年）日本連合医学会（現在の日本医学会）を設立。

1908年（明治41年）6月12日、ロベルト・コッホ、夫人同伴で来日。73日間で伊勢神宮、関西、広島、瀬戸内海周遊をして8月24日離日。

1916年（大正5年）には大日本医師会（現在の日本医師会）を設立し、初代医師会長に就任。

1931年、78歳で逝去。

となっています。博士の研究等には余り触れられていないが、国内の風土病と呼ばれるツツガムシ病の研究に新潟県に滞在したという事は知られているが、栃木県についての情報は知られていない。そんな中、2019年6月7日の産経新聞紙上に

「新千円札の北里柴三郎、日光訪問時の写真と手紙現存 高野さん曾祖父おもてなし、蔵から発見」

という記事が掲載された。北里柴三郎記念博物館の資料を調べてみると、



2019/6/7 07:02 産経新聞

令和6（2024）年度から発行される新千円札に肖像画が採用された「日本の細菌学の父」北里柴三郎が、明治41（1908）年に日光を訪れた際の写真と直筆の手紙が現存していることが分かった。北里をもてなした医師の子孫の家の蔵から約15年前に発見された。北里と日光のつながりを示す貴重な資料だ。（根本和哉）

明治41年、北里はドイツ留学時代に師事していた細菌学者、ロベルト・コッホを日本に招き、静養のため日光を訪れた。その際、北里らをもてなしたのが日光で開業医をしていた高野さんの曾祖父、健之輔さんだったという。

健之輔さんは仲間の医師らとともに北里らを歓迎し、日光を案内。残っている写真はその際に撮影されたもので、日光金谷ホテル（同市上鉢石町）とみられる建物前で記念撮影をする北里やコッホの姿がある。

直筆の手紙は後日、健之輔さんらの歓迎に対する礼状として北里から送られたもの。「盛大な歓迎や貴重な記念品をいただき、感謝している」「コッホ先生も非常に満足されていた」といった内容が記されており、封筒に署名も入っている。



高野さんは、平成15年に父親が亡くなり、蔵を整理していた際に写真と手紙を発見。「曾祖父のことは話にしか聞いていなかった。まさかこんなものが残っているとは」と振り返る。

「（北里らが）日光に来てくれていたのはうれしく思う。礼状を送られたということは、曾祖父はいいもてなしをしたのだろう。本人にとってもいい思い出だっ

たのだと思う」と感慨深そうに話した。

## 新紙幣の顔ととちぎ 北里柴三郎 コッホ夫妻と日光で静養

下野新聞 2024 年 1 月 1 日

「近代日本医学の父」として知られる北里柴三郎（1853～1931 年）は 1908（明治 41）年の夏、ドイツ留学時代に師事した細菌学者ロベルト・コッホらと日光へ静養に訪れている。当時の様子を、下野新聞は連日伝えていた。

紙面によると、コッホ夫妻や北里ら一行を乗せた列車が宇都宮駅に到着すると、歓迎の花火が打ち上がり、県知事らが出迎えた。日光滞在は 6 月 27 日～7 月 1 日。北里がコッホ夫妻を日光東照宮へ案内するなどした。

日光市下鉢石町、高野隆史（こうのたかし）さん（68）は、北里直筆の手紙と写真を保管している。地元の開業医として北里ら一行をもてなした曾祖父健之輔（けんのすけ）さんが残したものだ。今から約 20 年前、自宅の蔵を整理した際に見つけたという。

手紙は北里が帰京した後にしたため、筆書きで地元医師らの歓待への感謝がつづられている。写真は、日光金谷ホテルとみられる建物の前で撮影され、コッホ夫妻や北里を囲むように、健之輔さんら医師団メンバーが正装で並ぶ。

「当時の医師たちにとって、医学界の権威である北里らとの出会いは大きな出来事だったのだろう」。高野さんは手紙や写真を手に、思いを巡らせた。

## 支部会員近況

（新年会 2024 返信ハガキより）

坂井 広人（2002FF）

栃木県立博物館の仕事を継続してやっています。

栃木県内の地衣類の調査です。

芝田 周平（1981VV）

令和 5 年 4 月から栃木県食肉衛生検査所で週 4 日検査員として働いています。米作りや家庭菜園も楽しんでます。趣味として山登りとラージボール卓球を楽しんでいます。

田村 明美（1984HI）

明けましておめでとうございます。栃木県支部事務局を引き継いだ田村明美です。医療関係の仕事から離れている私でよいのかと思いますが、出来るかぎりがんばります。よろしくお祈りします。

今井 幸子（1970HC）

毎週月曜日 17 時半から、自治医大駅近くのグリーンタウン・コミュニティセンターで卓球（ラージボール）を楽しんでいます。興味のある方はどうぞ。

猪瀬光二（1983VV）

今回はせっかくの案内でしたが、日程の調整がつ

かず残念ながら欠席とさせていただきます。主催者の皆さんには心から感謝申し上げます。

下村 裕史（1994VV）

滝先生、自治医大微生物学教室 50 周年記念パーティの開催、お疲れさまでした。また冊子を送っていただき、誠に有り難うございました。

先生のお元気そうなお姿を拝見し安心しました。笑。

佐藤 昭彦（1979HH）

・私は現在、地元栃木市の栃木合唱団のバスとして入団 39 年になり、来年 40 周年を迎えます。

・栃木合唱団は 3 年後に創立 70 周年をむかえ、日本では最古の合唱団だそうです。52 年前はボニー・ジャックスや日本の有名な作曲家・中田喜直をむかえコンサートをさせていただきました。

齋藤 公哉（2016MM）

申し訳ありません。北里大学の方におります。

水井 守（1980VZ）・紀子（1977HH）

申し訳ありません。喪中なので欠席させていただきます。

齋藤 友哉（2010MM）

申し訳ありません。今は済生会に在籍しております。

姜 健（1984MM）

特に変りなしです。

今井 環（1992MM）

いつも大変お世話になっております。中々参加できずすみません。

荒木 由紀子（1984HH）

毎号楽しく拝読させていただいております。有り難うございます。

大木 美智子（1979PP）

実母がグループホームに入居して 1 年。去年は 8～12 月まで、ゴミ屋敷だった実家の片付けでほとんど（佐野＝岩槻）毎日通っていました。高速道路 120Km 区間なので、つい速度を。先日、東名で 27Km オーバーでおまわりさんと仲良くなりました。やっとゴールド免許になったのに残念です。

田村 大輔（2000MM）

すみません。研究会が入っておりました。

いつもお声かけありがとうございます。

茂呂 哲夫（1998PT）

土曜日は仕事のため参加できず申し訳ありません。元気にやっております。

滝 龍雄（1971HH）

去年は COVID-19 感染症が 5 類に変更され、自粛していた集まりに参加できることに喜びを感じています。僕自身は後期高齢者になり初めて迎える新年です。皆さんの手を煩わさないようにしたいと思います。

下野新聞の 1 月 1 日号にも特集で掲載されたように今年の 7 月には新紙幣が流通します。学祖北里柴三郎博士の肖像画が使われた新 1,000 円札もお目見えます。お目出たい事ですね。



更に、今年は栃木県支部が創立されて 30 周年になります。それを祝って、運営委員の皆さんと区切りの企画を考えたいと思います。皆さん、その時にはご参加ください。

## 今年、北里大学同窓会栃木県支部 は設立30年目を迎えます。 お祝いの企画を募集します。

栃木県支部 支部長 滝 龍雄

皆様ご存知の事と思いますが、北里大学同窓会栃木県支部は 1994 年（平成 6 年）に、当時済生会宇都宮病院の検査技師長であった荒木俊光氏が中心となり 18 名の有志が協力して発足しました。最初の 7～8 年は総会、講演会を開催し、活発に活動していましたが、その後 7～8 年は活動が停滞してしまい、2008 年 7 月に開催された総会において支部の解散という話も出ましたが、折角設立した支部会をこのまま立ち消えにしてしまうのも、勿体ないと言うことで、滝が支部長を引き継ぎました。今から 15 年位前の話です。その後、支部会ニュースを年に 2～3 回発行し、支部の活動を知ってもらい、多くの会員に参加してもらえ企画をと考えて来ましたが、残念ながら十分に支部の皆様の希望に添えているとは言えません。特に支部会ニュースを読んでいると、参加者がいつも同じではないかと思う事もあるかと思えます。実情、卒業したばかりから 40 歳台の会員の参加が非常に少なくなっています。

それで、支部の設立 30 周年を機に、会員の皆様に若い人も含めて多くの会員の参加できる新しい企画を提案して頂き、活動を広げて行きたいと思っています。

## 「物づくり県栃木の一翼を担う」

1979PT 富永 英夫

私は福島県郡山市の出身です。

福島県立安積（あさか）高校を 1975 年卒業し、北里大学薬学部製薬学科入学しました。1979 年（昭和 54 年）に薬学部を卒業し、製薬会社に入社し、早いもので 45 年が経ちました。薬剤師としては調剤業務をしたことがありません。製薬薬剤師として勤務し、医薬品の許認可申請業務、薬事業務、医薬品製造工場長などいろいろな仕事をさせていただきました。現在は医薬品製造販売業の総括製造販売責任者の任についています。



（長崎本土の田平天主堂にて；大学同級生の妻と）

医薬品の製造は規制が多く、資格要件として薬剤師の資格を求められます。製薬業では薬剤師の活躍の場が多く調剤業務だけではなくこうした業務もあります。栃木県は「物づくり県」なんだよと福田知事は常々話されています。医薬品、医療機器、医薬部外品、化粧品などの製造業が県内には数多くあり、主だった企業をあげれば、医薬品はグラクソスミスクライン、中外製薬工業、久光製薬などで県内医薬品企業の総生産額は 2023 年の集計で約 8,900 億円になり、埼玉県を抜いて日本 1 位となりました。医療機器はキャノンメディカル、マニー、ナカニシなど約 2,400 億円で全国 2 位。化粧品は大田原に資生堂の工場が新設されました。こうした医療保健衛生関連の生産金額は栃木県の県民 GDP に貢献しており「物づくり県栃木」の一翼を担っていると思います。

1974 年にこれら関連企業により栃木県薬事工業会が薬事衛生の向上と安全・安心な製品の生産と安定供給を目的として創立され、栃木県薬務課の支援を頂きながら各種講習会などの活動を続け今年で 50 周年を迎えます。私は、当会の会長を 2016 年から拝命しております。

東京一極集中で、地方は労働力不足の傾向が年々増えておりますが、栃木県は工業団地が多く、医薬品、医療機器などの工場も多くの人材を募集しております。東京で家を持つのは、最近のマンションの価格を見てもローンを組むのがとても大変だと思います。衣食住のコストが安く、給与レベルは首都圏と大きな差がなく、天災の少ない栃木でゆとりのある生活を送るのも一つの考え方だと思います。

## 回顧と近況報告

2000VZ 秦 利憲



私は広島県広島市西区生まれ県立井口高校普通科出身で母方の祖父母が石丸市長で話題の安芸高田市(旧高宮町)で和牛を飼っていた関係で動物に興味を持ち北里大学獣医畜産学部に入學しました。大学時代は運動音痴にも関わらず北里会排球部に所属し副主将を務めました。現在も定期的に近所の体育館でママさんバレーに加わり健康目的で体を動かしています。

研究室は環境学で内容はよく覚えていませんが、たしか分子生物学で乳酸菌(JCM1038株)の遺伝子解析と環境応答についてだったと思います。卒業式が終わった後もアパートを引き払うことが出来ず教授のこだわりで卒論の書き直しをしたこともいい思い出です。卒業後、動物用医薬品製造販売の日本全薬工業株式会社(現ZENOAQ)に入社しました。たしか当時就職難でしたが教授のコネがあった関係でオウム信者に疑われながらもほぼ面接のみで入りました。入社当初はエリア営業で養鶏以外の酪農、肉牛、養豚、小動物すべてを担当しましたが途中から酪農専門でした。現場で飼料設計に多く携わっていた関係で約10年前に転職し、現在株式会社J-オイルミルズ油糧部に在籍しております。

株式会社J-オイルミルズは20年前に味の素製油、ホーネンコポレーション、吉原製油の3社が統合して設立した会社で食用油脂を主たる業務とする食品メーカーです。私の仕事内容は搾油で生じた原料を配合飼料にして販売する部門のメーカー営業ですが、酪農の規模拡大に伴いつなぎを着用して直接畜産農家に獣医師と入ることも多いです。畜産農家もコストプッシュインフレで経営が苦しい場面が多いですが、これまでの経験や大学で学んだことを生かしながら少しでも貢献できればと関係者と共に日々努めています。

先日仕事で青森県に行ったついでに久しぶりに十和田のバイト先に寄って店長と会ってきました。新幹線車窓からサンデー、ユニバースの看板が見えてきて大変懐かしい思いになりました。

### 北里大学同窓会栃木県支部 30周年-1

荒木俊光 (1970HH)

#### 北里大学の思い出(創設当時の大学の状況)

北里大学は昭和37年(1962年)港区芝白金三光町にあります北里研究所の敷地内に設立された。衛生学部(衛生技術科、化学科)で始まり、1964年薬学部薬学

科、1965年薬学部製薬学科、1966年畜産学部(獣医、畜産)、1968年相模原キャンパスが開設され産業衛生学部が、1970年医学部、1971年北里大学病院、1972年水産学部、1986年看護学部および北里大学東病院開設と目覚ましい発展を遂げた。

私は昭和41年(1966年)4月に北里大学衛生技術学部衛生技術学科の5回生として入学。校舎は芝白金三光町の北里研究所内にあり、1階に大学事務局のある地下1階地上5階建てのC号館でした。その正面には新設の薬学部の地下1階地上8階建ての立派なE号館がそびえ建っていた。



北里研究所本館(現在:明治村)



北里大学E号館(左、本館後部)C号館(右)

その頃はまだ、相模原キャンパスはなく、大学3年の時に青森十和田の獣医学部や芝白金の衛生学部・薬学部など全ての学部の教養課程が相模原キャンパスに移った。この頃から、クラブ活動などで相模原校舎に向いたが、昭和45年(1970年)3月の卒業まで芝白金で過ごした。東北弁なまりのドイツ語を安斎博教授(公衆衛生学)に、ウイルス学を長木大三教授(1970年に北里大学学長になられる)にご教授いただいたことを思い出しました。大学の2年生頃からクラブ活動の他に、入学して仲良くなった同級生、クラブの先輩などと共に、授業外学習として公衆衛生学教室(キノコの抗菌作用)、寄生虫学教室(蚊、ハエの子ウジやダニの分別)、薬理学教室などに通い、3年になってからは北里研究所の放線菌を中心とした微生物部門に足を運んだ。4年になってからは学外研修の目的で、夏休みなどを利用して北里研究所の近くにありますが東京大学医科学研究所(旧伝染病研究所)の微生物学研究室(吉川昌之助教授)、医動物学研究室(中野康平教授、後に自治医科大学教授になられる)でトキソプラズマなどの原虫のマウス・砂ネズミ・モルモットなどを使った動物感染実験のお手伝いなどをさせてもらった。

大学の実習ではガス壊疽菌の感染実験(ラット)、妊娠診断のマイニニの雄ガマ反応(雄のヒキガエル)やフリードマン反応(雌の家兎)、眼静脈採血(マウス、ラット)、心臓採血(マウス、ラット、砂ネズミ、モルモット、家兎)など多くの実験動物を扱うことができ、実習にも熱が入っていた事を思い出した。これらの経験が卒業してからの就職において役に立に立つことになった。

#### 栃木県支部設立30周年記念企画の提案

10月22日(日)、福岡県支部の設立35周年記念行事に招かれて参加しましたが、昼間は「海の中道公園・動物の森」での講演会と動物園観覧、夜は博多駅

近くのホテルで「福岡県支部総会・懇親会」が行われ、昼間には子供連れの家族が多く集まりました。夜は子供も参加できるメニューでのパーティでした。栃木県支部でも、家族連れで参加できる企画を立てたいと思います。是非、新年会出欠用のハガキに、一筆提案を加えて下さい。提案された内容については運営委員会で開催について検討し、可能であれば実行します。奮って提案して下さい。